

令和 7 年度第 2 期泉佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議

第 1 回事業評価委員会 会議録要旨

開催日時	令和 7 年 7 月 1 7 日（木）午後 6 時 30 分～8 時 30 分	
開催場所	泉佐野市役所 5 階 第一会議室	
案件	1 開会 2 委員の紹介 3 事務局の紹介 4 議 事 (1) 泉佐野市の状況について（報告） (2) 令和 6 年度実施事業の進捗状況・評価・検証について (3) 今後の予定について (4) その他 5 閉会	
委員出席者	吉村委員長 古谷副委員長 大道委員 河合委員 菊野委員 栗本委員 中原委員	
事務局出席者	河野政策監兼市長公室長 川崎政策推進課長 塩見政策推進課係長 中上政策推進課主任 喜多政策推進課係員	
創生本部の幹事	奥教育長 井尻 e スポーツ担当理事 木ノ元自治振興担当理事 吉備泉佐野産担当理事 今西まちの活性化担当理事 前田こども貧困対策担当理事 和田まちづくり調整担当理事	塩見成長戦略室次長 樫葉危機管理監 梅本人権推進担当理事 林環境エネルギー担当理事 貝塚政策監兼健康福祉部長 高橋政策監兼都市整備部長 南政策監兼教育部長

配付資料

【資料 1】 泉佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議・事業評価委員会委員名簿

【資料 2】 泉佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議・事業評価委員会設置要綱

【資料 3-1】 デジタル田園都市国家構想交付金 令和 6 年度活用実績

【資料 3-2】 新しい地方経済・生活環境創生交付金（第 2 世代交付金）

令和 7 年度申請状況

【資料 4】 令和 6 年度実施事業評価一覧表

【資料 5】 P D C A サイクル 進捗管理シート

【別紙】 KPI の修正について

（観光アプリ等を活用した着地型観光商品普及のための地域活性化計画）

《開会の辞》

《委員・事務局・幹事紹介》

《委員長・副委員長の紹介》

《資料確認》

《本会議の設置根拠や会議運営にあたっての諸事項説明》

事務局： 只今の説明について、ご意見、ご質問等がありますか。《なし》

続いて、次第４の議事に入ります。ここからの進行については、先ほども申し上げたとおり、吉村委員長に議長をお願いしたいと思います。吉村委員長、よろしくお願いします。

委員長： 委員長にご指名にあがりました吉村でございます。

長めの会議となりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

では、早速ですが、泉佐野市の状況につきまして、事務局の方からご説明をお願いいたします。

事務局：《（１）泉佐野市の状況について報告》

それでは、案件（１）泉佐野市の状況について、総合戦略には全国的に進む人口減少に歯止めをかけるという目的がございますので、資料はございませんが、泉佐野市の人口の状況等を、まずご説明したいと思います。

まず国レベルでは、本年６月に公表された厚生労働省の令和６年人口動態統計月報年計によりますと、出生数は過去最少、自然増減数は１８年連続して減少、合計特殊出生率は１.１５（対前年比△０.０５ポイント）で、９年連続低下といった状況でございました。

また大阪府下では、合計特殊出生率が１.１４と前年から０.０５ポイント低下している状況です。

そして、泉佐野市の状況でございますが、令和２年国勢調査によりますと、合計特殊出生率が１.２３と前回の平成２７年国勢調査より０.０８ポイント低下している状況です。また、人口についてですが、本市の場合は、月ベースでは人口増減を繰り返しつつ、暦年ベースで見ますと微増（Ｒ５.１２末 ９９,０３７人→Ｒ６.１２末 ９９,３１８人で ２８１人【住民基本台帳より※外国人含む】）という結果になっています。

日本人と外国人の括りでみますと、日本人は減少（Ｒ５.１２末 ９６,２１２人→Ｒ６.１２末 ９５,７９８人で△４１４人）しておりますが、外国人は増加（Ｒ５.１２末 ２,８２５人→Ｒ６.１２末 ３,５２０人で ６９５人）傾向にあります。

就労されている外国人や留学生などの定住人口の増加の影響により、本市全体として人口は微増となっているところが、本市の特徴となっております。

このように、まち・ひと・しごと創生総合戦略で東京一極集中を是正し人口減少に歯止めをかけることが掲げられているものの、本市では日本人人口の減少が続いているなど、厳しい状況となっております。

人口の状況は以上のとおりでございます。

それでは、資料３－１の表裏をご覧ください。

地方創生に伴う国の財政支援であるデジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）の令和６年度の活用実績等についてご報告いたします。

まず、表の見方ですが、表の左上に交付金の種類（単独または広域）を記載しており、これは市単独で行っている事業を単独事業、他市町村と連携して行っている事業を広域事業の2種類にわかれています。また、この交付金を活用充当した各事業を総合戦略に掲げた4つの基本目標ごとに記載しております。表の左側から番号、当該事業の担当課名、事業名、事業概要、決算額、決算額のうちの交付金充当額、市の負担となる一般財源額、重要業績評価指標（KPI）、そして、参考として、当該事業の進捗管理シートを資料5で綴っておりますので、そのページ数を、効果検証（委員会コメント）については、評価委員会において交付金対象事業に対してコメントがあれば記載させていただきます。また資料3-1の裏面の下部にも記載がございますが、資料3-1に記載している決算額は交付金の対象経費額となっており、資料5の対応する事業の決算額は交付金以外の事業全体の額となっていることから、決算額に相違がございますのでご注意ください。

それでは、交付金の活用状況について、簡単にご説明します。平成28年度早々に、地方創生の深化に向けた総額1,000億円を予算規模とする「地方創生推進交付金」が新設され、また令和7年度からは「新しい地方経済・生活環境創生交付金（第2世代交付金）」へと名称等が変更となっています。この交付金の特徴としましては、事業期間は複数年度も可能とし、安定的・継続的に支援するところにあります。また、2分の1補助と自立性も求められているところも特徴の1つでございます。

令和6年度における交付金につきましては、資料3-1の1ページ目（表面）に記載の単独事業である「eスポーツ MICE コンテンツ実証計画」と「観光アプリ等を活用した着地型商品普及のための地域活性化計画」、次に資料3-1の2ページ目（裏面）に記載の広域事業である『恋人の聖地』広域市町村連携による関係人口拡大に向けたバーチャルコンパクトシティの3事業を申請し、3事業が交付決定されました。令和6年度における交付金額の合計は資料3-1の2ページ目（裏面）最下段になりますが、1億2千510万5千616円で決算額の合計としては2億5千21万1千232円となっております。

続きまして、資料3-2の表裏をご覧ください。

令和7年度の申請状況についてご報告いたします。

なお、先ほども説明しましたとおり、令和7年度からは交付金の名称が「新しい地方経済・生活環境創生交付金（第2世代交付金）」と変更となっております。

令和7年度における交付金につきましては、資料3-2の1ページ目（表面）に単独事業として、令和4年度に認められた「eスポーツ MICE コンテンツ実証計画」で1億1千500万円。同じく単独分として令和6年度に認められた「観光アプリ等を活用した着地型商品普及のための地域活性化計画」で1千682万6千円。次に同じく単独分として令和7年度に新しく認められた「スタートアップ等の誘致・集積による産業振興事業」で2千100万円となっております。

それと、資料3-2の2ページ目（裏面）の広域事業として認められた『恋人の聖地』広域市町村連携による関係人口拡大に向けたバーチャルコンパクトシティで3千539万5千円となっております。

以上、単独分3つで1億5千282万6千円、広域分1つで3千539万5千円となっており、4つの事業の交付金予定額の合計が資料3-2の2ページ目（裏面）最下段にあります1億8千822万1千円となっており、予算額の合計としては3億7千644万3千円となっております。

なお、この交付金につきましては、今後とも交付金や基金の活用も含めて、財源の確保に努めていきながら、地方創生に向けた取り組みを行っていきたいと考えております。

報告は以上です。

委員長： 泉佐野市の人口や交付金などのご報告でしたが、何かご意見、ご質問等はないか。

委員長： 他にご意見、ご質問等はないか。

《なし》

それでは次に（２）令和６年度実施事業の進捗状況・評価・検証について、先に資料等について事務局から説明を受けた後、検証方法と進め方について、ご意見を頂戴したい。それでは、事務局の方からの説明をお願いしたい。

事務局：《（２）令和６年度実施事業の進捗状況・評価・検証について説明》

事業評価委員会のメインとなります令和６年度実施事業の進捗状況・評価・検証についてですが、資料４と資料５を基にして、評価等をしていただくことになります。

まず、資料４をご覧ください。

令和６年度実施事業評価一覧表としまして、総合戦略に掲げた全事業の評価一覧表で、４つの基本目標ごとに、それぞれの事業を記載いたしております。表の左側から、番号、具体的な施策及び事業名、令和５年度の評価、令和６年度の市の評価、委員会評価、コメント、そして当該事業の進捗管理シートを、次にご説明させていただき資料５に綴っておりますので、そのページ数を記載いたしました。

市評価につきましては、裏面の２ページの集計になりますが、評価はＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅの５段階評価とし、一番評価が高いのはＡ評価で「目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する」で、反対に一番評価が低いのはＥ評価で「目標値または事業自体の抜本的見直しを要する」としました。その集計でございますが、Ａ評価が一番多く１５事業、Ｂ評価が１４事業、Ｃ評価が１２事業、Ｄ評価が０事業、Ｅ評価が０事業で、合計４１事業が今回の評価対象事業数となっております。

なお、事業数についてですが、昨年の４２事業から４１事業となっている内訳を説明しますと、資料４表面の左側にある事業番号６「地域課題解決型就職氷河期世代就労支援事業」、事業番号１１「関空立国デスティネーション化推進事業」の２事業が令和５年度に事業が終了したことに伴い削除、また事業番号１５「観光アプリ等を活用した着地型観光商品普及のための地域活性化計画」が令和６年度から事業が開始したことに伴い追加となっており、結果としまして２事業減、１事業増の計１事業減となっております。

あと、一覧表の委員会評価及びコメント欄につきましては、資料５の進捗管理シートでの委員会評価の結果を記入できるようにしており、委員会としてのコメントがある場合は○印を記入するようにしております。

次に、資料５をご覧ください。ＰＤＣＡサイクルの進捗管理シートを事業ごとに作成したものでございます。表紙をめくっていただき、シートの説明をさせていただきますと、まず上段の表では、基本目標、基本的方向、具体的施策、事業名、事業概要を、中段の表では進捗状況としまして、目標事項やＫＰＩ（重要業績評価指標）、現状値を記載しております。そこへ令和６年度の実績値とその達成度を記入しており、この令和６年度の実績が評価の判断材料の１つとなります。

ここで、少し達成度について補足説明させていただきます。事業評価は、事業内容などの評価に加え達成度も勘案して事業全体を評価することになります。またその指標につきましては、事業の性質上、単年のものや累計のものがございます。そのあたりを表の中の「令和７年度目標値」の横

に明記しております。

また、その横にある指標の傾向も補足説明させていただきます。矢印で「上向き・平行・下向き」で示しております。これは指標によって、資料5のp17「幼児教育・保育」のKPIである「待機児童数」のように0を堅持することを目標にした時の「平行」や、資料5のp23「家庭への支援事業（スクールカウンセラー等による相談）」のKPIである「不登校生徒の内、相談指導を受けていない児童生徒の割合」のように減らすことを目標にした「下向き」で示したものでございます。

なお目標事項ごとに、KPI設定根拠やKPI目標数値の積算根拠も示しております。

そして下段になりますが、令和6年度の市の評価としまして、担当課の評価と進捗状況のコメント、改善としまして、令和7年度の取り組みなどのコメントを記載しております。これらも評価の判断材料になるものと考えております。あと、最下段には、委員会としての評価とコメントを入れる欄を設けております。

また、各シートの右下にはページ数を記載しており、このページ数は先ほどの資料4に記載しているページ数と連動しております。

以上、これらの資料を基に、各委員に評価いただくことになりますので、よろしくお願いします。

委員長：何か他にご質問はないか。《なし》

それでは、評価の進め方について、私の方からご提案をさせていただきたい。これから、1つ1つの事業について評価する訳だが、時間的な制約もあるので、基本的には資料を事前にお読みいただいているという前提で、個別の事業については、事務局から補足説明が必要なものだけ説明して頂くということにしたい。そして、評価の方法であるが、市の自己評価に対して、特に皆さまのご意見がない場合には、委員会としては自己評価どおりとさせて頂きたい。ただ、市の自己評価と異なる評価を委員会でする場合には、委員会として、その判断理由のコメントを記すということにしたい。加えて、今年度からは事務局より説明があったとおり、資料3-1の「デジタル田園都市国家構想交付金」についても委員会としての評価欄が追加されたので、皆様からのご意見があればコメントを付し、ご意見がなければ「意見なし」としたい。以上のような評価の仕方では進めさせていただいてよろしいか。《はい》

では、その形で進めさせていただく。それでは、評価に入らせて頂くが、4つの基本目標があるので、目標ごとに分けて、評価していきたい。それでは、まず、基本目標①安定した雇用を創出するについて、事務局から補足説明をお願いしたい。

事務局：《基本目標①の事業について補足説明》

それでは、基本目標①に掲げる各事業の令和6年度市の評価に対する補足説明をさせていただきます。なお、ここからの基本目標ごとの補足説明につきましては、各事業の市の評価がB評価である「ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。」以外の評価となった事業を中心に説明させていただきます。

まず、資料4の評価一覧表の表面をご覧ください。

基本目標①「安定した雇用を創出する」に掲げた事業は6事業でございます。市の評価につきましてはA評価が2事業、B評価が2事業、C評価が2事業となりました。

それでは、資料5の2ページをご覧ください。「企業誘致奨励金事業」ですが、事業概要としましては、市内に新たに事業所を建設・設置される企業で、一定条件を満たす場合に奨励金を交付するものでございます。目標事項①の奨励金交付企業について新規件数が1件増えましたが目標値には届かず、目標事項②の新規雇用者もほぼ現状維持に留まったことから、目標事項①②の達成度を

総合的に判断し、市の評価としてはC評価としております。

次に、資料5の3ページをご覧ください。「地場産品創出支援事業」ですが、事業概要としましては、ふるさと納税を利用して企業から新たな地場産品の提案を受けて、クラウドファンディングのプロジェクトを実施するものでございます。目標事項①の企業誘致件数の達成度が100%を超えており、また目標事項②のクラウドファンディングに係る交付予定事業件数も、目標値を大きく上回っていることから、市の評価としてはA評価としております。

次に、資料5の4ページをご覧ください。「エリアマネジメント活動推進事業」ですが、事業概要としましては、本市の中心市街地の活性化を図るため、エリアマネジメントの推進や遊休不動産の活用等により、中心市街地の再生に取り組むものでございます。目標事項①②とも、KPIの数値や達成度が高くなっていることから、市の評価としてはA評価としております。

次に、資料5の6ページをご覧ください。「外国人受入環境整備事業」ですが、事業概要としましては、外国人材に対してのワンストップ相談窓口の設置、優良な外国人材の確保・育成を通じた雇用マッチング、地域社会の交流支援などを実施するものでございます。

目標事項の②の施設の利用者について、外国人就労者に関する相談窓口での相談件数が大きく増加しているものの、目標事項の①である外国人就労者の斡旋までに繋がらなかったことから、市の評価としてはC評価としております。

基本目標①の補足説明は以上です。

委員長： それでは、基本目標①の各事業について、何かご意見・ご質問等はないか。

委員： 2ページ「企業誘致奨励金事業」について、6年度評価で、主にりんくうタウン域内の企業に対して交付しているとあるが、大阪府としてもりんくうタウンは事業所がいくつかあるが、7年度における取り組みで、換地処分予定の泉佐野丘陵東地区等の記述もあるが、市として今後の進め方について教えていただきたい。

幹事： 進め方についてはご指摘いただいたとおりである。りんくうタウンは新陳代謝が進んだ。またエリアごとの考え方があり、先の話になるが上之郷では産業集積用地を作る予定がある。東地区には物流やデータセンター、西地区には製造業などを予定している。BCPの観点から臨海部のコンビナートや移転が進んでいけばと考えている。りんくうタウンは商業・物流・宿泊中心で、山手側は製造業中心の集積を考えている。

委員： 4ページ「エリアマネジメント活動推進事業」について、KPI①「遊休不動産を活用して新たに事業開始した件数」が新規9件とあり、また6年度評価には9名の新規出店との記載があるが、これらはたまたま同じ数値になったとのことか。

また、KPI②「女性等の社会進出支援人数」について、女性等との記載があるがこれは男性も対象としているのか。

幹事： 9件のカウントについて、それぞれ別でカウントしているものであり、起業や女性向けのセミナーなどを実施している。

女性等の記載について、女性向けではあるが、女性に限定したものでなく男性も含めた支援となっている。

委員： 6ページ「外国人受入環境整備事業」について、KPI②「施設の利用者数」が大幅に増加しているが、具体的にどのような相談内容が多いのか。

幹事： 相談内容は雇用・労働の相談が一番多く、次いで日本語学習の相談が多くなっている。

委員： 5ページ「地域就労支援事業」について、6年度評価で「従来からの長期雇用への支援ともに安

定した雇用を創出」とあるが、「従来からの長期雇用への支援とともに安定した雇用を創出」が正しいのではないかと。

幹 事： ご指摘いただいた内容に修正する。

委 員 長： 他いかがか。

基本目標①についてはよろしいか。それでは基本目標①の事業については、市の自己評価の通りとさせて頂きたい。《はい》

次に、基本目標②の説明に入る前に、別紙（KPI の修正）について、事務局より説明をお願いしたい。

事 務 局：《別紙（KPI 修正）の事業について補足説明》

基本目標②に掲げる各事業の説明に入る前に、KPI の修正について検討いただきたいところがありますので、説明をさせていただきます。

別紙（KPI の修正）をご覧ください。

基本目標②「定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる」に掲げた事業のうち、「観光アプリ等を活用した着地型観光商品普及のための地域活性化計画」（資料 5 11 ページに掲載している事業）について、KPI 修正のご審議をしていただきたいと思いますと考えております。

まず本事業の概要ですが、観光アプリでの情報発信や観光情報サイトの作成及び運営や、市内を巡る観光商品の作成・販売により、国内外からの誘客を図るものでございます。

次に修正理由についてですが、本事業は、令和 6 年度からデジタル田園都市国家構想交付金を活用して、新規事業として実施しております。デジタル田園都市国家構想交付金の交付申請をした際には、別紙の上図のとおり KPI を設定しておりました。

しかし、計画時の K P I ②の目標数値の算出において、当時の数値根拠として、市内に拠点を置く商業施設の来訪者数を算定基礎としていましたが、そのデータ取得ができなくなったこと。また K P I ④の目標値の算出において、本市では、R5 年度から、シェアサイクル（利用者は、専用アプリで使用料を決裁し、市内のホテルや駅付近に設置しているポート【自転車置き場】で貸出しや返却ができる）を導入しましたが、シェアサイクル運営事業者が経営破綻をしたことなどの理由により、KPI を修正する必要となりました。

そのような理由により、算出方法や目標指標を見直し、別紙の下図の赤字部分を新たな目標を設定することを検討しております。

その他の修正箇所ですが、まず、事業開始前（現時点）につきまして、交付金申請計画時点では事業開始前年にあたる R 5 年度の実績数値の把握ができていませんでしたので、KPI①から④につきまして、R 4 年度の実績数値を基に算出しておりましたので、それを事業開始前年にあたる R 5 年度の実績数値に修正しております。

各 KPI について個別に説明しますと、KPI①（地域における観光消費額）は、令和 5 年の市内宿泊者数である 1,889,140 人に、一人当たりの消費単価 23, 000 円を乗じた 43,450,220,000 円を事業開始前（現時点）の数値とし、1 年目以降は、泉佐野市総合計画に記載されている宿泊者増加数の 60,000 人に一人当たりの消費単価 23, 000 円を乗じた 1,380,000,000 円としました。

次に KPI②（泉佐野市内の観光来訪者数）は、「公益社団法人 日本観光振興協会」の HP で公表されている R5 年度の観光来訪者の 1,120,457 人を、事業開始前（現時点）の数値とし、1 年目以降は、その数値の 2%増加すると見込み、22,400 人としております。

次に KPI③（アプリ上での商品の販売売上額）は、2027 年度増加分（4 年目）の指標について

錯誤がありましたので金額を修正しております。

最後の KPI④（シェアサイクルの利用実績額）につきましては、先ほど説明させていただきましたが、シェアサイクル運営事業者が破綻したため、従来から運営しておりますレンタサイクル（利用者は事務所にて申込み、貸出や返却を行う）の利用実績額に修正しております。

以上が修正内容の概要でございます。

また参考として別紙下部に第2世代交付金に関するQ&Aを記載しております。その中では「地域の多様な主体の参画による検証の結果、合理的な理由があると認められるなど特段の場合に限り、KPI の変更を申請することが可能」とあります。

この「地域の多様な主体の参画による検証」が当事業評価委員会にあたりますので、今回の KPI 修正について合理的な理由があるかご審議いただきますようお願いいたします。

別紙（KPI の修正）の補足説明は以上です。

委員長： それでは、別紙（KPI 修正）について、何かご意見・ご質問等はないか。

委員： 別紙（KPI 修正）について、KPI①「地域における観光消費額」の事業開始前（現時点）の数値が修正前後で倍くらいの違いがあるがなぜなのか。

幹事： こちらについて修正前は令和4年度の数字となっており、この期間中はコロナ禍の数字である。修正後は令和5年度のコロナ後の数値のため数値が大きく変わっている。

委員： 要するに KPI の数字のカウントが違うので観光消費額の KPI が大きく違うということか。

幹事： 観光消費額の KPI の事業開始前（現時点）について、交付金申請時は令和4年度の数値としていたところ令和5年度の数値に修正したことから大きく変わっている。また KPI②について、観光入込客数としていたところ来訪者数に変更したことから数値が変わっている。

委員： それでは、KPI①②の根本的なところが変わっているとの認識でよろしいか。

幹事： おっしゃるとおり。

委員： KPI③「アプリ上での商品の販売売上額」について、具体的にはどのようなものを販売しているのか。

幹事： 大阪観光局のアプリに、本市の体験型ツアーなどを販売するバナーを設置し、そちらのバナーから購入にいたった額となる。

委員： 年間9万円しかないということか。

幹事： おっしゃるとおり。今後売上を伸ばしていきたい。

委員長： 他いかがか。

別紙（KPI 修正）についてはいかがか。それでは別紙（KPI 修正）については、合理的な理由が認められるため、修正（案）のとおりとさせて頂きたい。《はい》

基本目標の②であるが、定住魅力の強化により泉佐野市への新しい人の流れをつくるというところについて、事務局から補足説明をお願いしたい。

事務局： 《基本目標②の事業について補足説明》

基本目標②に掲げる各事業に対する補足説明をさせていただきます。

資料4の評価一覧表表面の中段の表をご覧ください。

基本目標②「定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる」に掲げた事業は8事業でございます。市の評価につきましては、A評価が4事業、B評価が4事業となりました。

次に、資料5の9ページをご覧ください。「恋人の聖地」広域市町村連携による関係人口拡大に向けたバーチャルコンパクトシティ事業」ですが、事業概要としましては、NPO法人地域活性化センター「恋人の聖地」プロジェクトに参画する14市町村の広域連携・共同事業等により、関係人口の拡大をめざすものでございます。目標事項の①観光入込数や②仮想市民登録者数、そして③地方志向者の魅力度数、それぞれの実績値が目標値を上回ったことから、市の評価はA評価としました。

次に、資料5の10ページをご覧ください。「eスポーツ MICE コンテンツ実証事業」ですが、事業概要としましては、eスポーツを通じて人々に交流の機会を提供するほか、これを通じた人材育成等の取り組みによって、交流の増加・深化を図り、新たな都市魅力の創造や発信といった課題の解決を図るものでございます。目標事項の①②③とも実績値が大幅に目標値を上回ったことから、市の評価はA評価としました。

次に、資料5の11ページをご覧ください。「観光アプリ等を活用した着地型観光商品普及のための地域活性化計画」ですが、事業概要としましては、観光アプリでの情報発信や観光情報サイトの作成及び運営や、市内を巡る観光商品の作成・販売により、国内外からの誘客を図るものでございます。先ほどの別紙（KPIの修正）でご審議いただきましたとおり、新たにKPIを設定しなしております。目標事項の①②③④がおおむね目標どおり進捗していることから、市の評価はB評価としました。

次に、資料5の13ページをご覧ください。「ふるさと応援寄附金事業」ですが、事業概要としましては、全国の寄附者と繋がりを図ることにより、地元特産品のPRや販売促進、観光誘致につながることで、地元企業・地域の活性化をめざすものでございます。目標事項である寄附件数の実績値が大幅に目標値を上回ったことから、市の評価はA評価としました。

次に、資料5の14ページをご覧ください。「東京事務所運営事業」ですが、事業概要としましては、東京事務所の運営や東京を拠点とした自治体間の交流促進、イベントや東京いずみさの会等の開催・調整を行うものでございます。目標事項である東京いずみさの会 会員数ですが、会員獲得などの活動が功を奏し、実績値が大幅に増加したため、市の評価はA評価としました。

基本目標②の補足説明は以上です。

委員長： それでは、基本目標②の各事業について、ご意見・ご質問いかがか。

委員： 7ページ「住宅総合助成事業」について、KPI①「住宅総合助成事業による泉佐野ポイントの付与件数」で、例えば1000万円の工事であればポイントはいくつなど、工事費に対するポイント付与の割合はどうなっているのか。

幹事： 工事費に対してではなく、住宅を取得された方に対して一律25万ポイントを付与する事業であり、工事費などに連動するものではない。

委員： 13ページ「ふるさと応援寄附金事業」について、目標値を大きく上回っている。目標値の見直しなど検討されているか。

幹事： ふるさと納税制度は寄附であることから毎年度件数が確定することができないものである。また積算根拠としては、新制度のふるさと納税を受入れ開始した令和2年の数値をもとに設定している。今後見直しも含めて検討する。

委員： 10ページ「eスポーツ MICE コンテンツ実証事業」について、eスポーツはやる方から見る方に変わりつつあると思うが、そのようなイベントは今後検討されているのか。

幹事： eスポーツはやる人と見る人の両方がいないと成立しない。KPI②「交流人口（当該事業に関し

て、本市を訪問（単発の観戦を含む）した人数）」では、オフラインイベントの視聴者も含めている数値であり、令和 6 年度は約 180 万人の実績であった。本事業は交付金を活用しつつ、また企業版ふるさと納税も活用していることから、年度によって実施状況は変わるが、見る側も今後取り込んでいきたい。

委員：例えばドームに何万人を集める e スポーツ大会も開催されているところもあるので、いきなり泉佐野市で開催するとなると大きな費用がかかると思うが、そのようなイベントを開催することで交流人口が増えていくのではないかな。

委員：7 ページ「住宅総合助成事業」について、他の事業にも関係していると思うが、KPI①「住宅総合助成事業による泉佐野ポイントの付与件数」の「さのぼ」の財源は何か。また「さのぼ」は市民以外も活用できるものだと思うが、ポイントの仕組みを教えてください。

幹事：「さのぼ」は市内の加盟店のみ使用できるものとなっていることから、地域にお金が落ちる仕組みとなっている。財源については市の単費となっており、その原資は主にふるさと納税などである。

委員長：他、いかがか。

基本目標②の事業については、市の自己評価のとおりとさせていただきたいがよろしいか。《はい》

それでは、そのようにさせていただく。

続いて、基本目標③「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」について、事務局から補足説明あればお願いをする。

事務局：《基本目標③の事業について補足説明》

基本目標③に掲げる各事業に対する補足説明をさせていただきます。

資料 4 の評価一覧表表面下段の表をご覧ください。

基本目標③「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」に掲げた事業は 14 事業でございます。市の評価につきましては、A 評価が 6 事業、B 評価が 4 事業、C 評価が 4 事業となっています。

それでは、資料 5 の 15 ページをご覧ください。「さのっ子ナビ（電子母子手帳）による子育て支援」についてですが、事業概要としましては、妊娠中の役立つ情報をはじめ、予防接種のスケジュール管理や健診記録など、妊娠から出産、子育てまでの支援を行うものでございます。目標事項の実績値や達成度について、目標どおりに進捗したとは言えないため、C 評価としました。

次に、資料 5 の 16 ページをご覧ください。「地区福祉委員会活動の支援（ふれあいのまちづくり事業）」についてですが、事業概要としまして、地域において子育て世帯が孤立することなく、子育てに関する相談や親子の仲間づくりを目的とした子育てサロン活動の支援を行うものでございます。開催回数の増加がみられるものの、目標事項の①②を下回っているため、C 評価としました。

次に、資料 5 の 18 ページをご覧ください。「地域における子育て支援サービス」についてですが、事業概要としましては、地域子育て支援拠点事業やファミリーサポートセンター事業など、在宅で保育を行う家庭を含むすべての子育て家庭に対して必要な支援を行うものでございます。目標事項の①②を上回っているため、A 評価としました。

次に、資料 5 の 19 ページをご覧ください。「小学校通学支援事業」についてですが、事業概要としましては、立地的に支援が必要な地域又は山間部に立地する大木小学校について、マイクロバスを借り上げ、子ども達が安心・安全に学べられるよう、通学の支援を行うものでございます。目標事項の「通学バス利用児童数」の達成度が昨年度に続き 100%を超えたことから、A 評価としま

した。

次に、資料5の21ページをご覧ください。「放課後児童対策事業」についてですが、事業概要としましては、保護者が就労等により昼間家庭にいない小学校に就学している児童に、遊びや生活の場を提供するとともに、楽しく学べる学習支援プログラムを実施するものでございます。共働きやひとり親家庭が増加傾向にあり、目標事項の「留守家庭児童会入会者数」が、目標値を超えていることから、A評価としました。

次に、資料5の22ページをご覧ください。「泉佐野市の未来を創る教育事業」についてですが、事業概要としましては、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、重点支援小学校への支援策として「学力向上アドバイザー」を配置するなど、市域全体の学力向上を図るものでございます。目標事項となっている「小学校における全国学力・学習状況調査の平均正答率との差」において、①算数、②国語ともに、目標値の差より開きがありましたので、C評価としました。

次に、資料5の23ページをご覧ください。「家庭への支援事業」についてですが、事業概要としましては、いじめや不登校の未然防止・早期発見・早期解決に向けた体制の強化を図るため、スクールカウンセラーを教育支援センター「さわやかルーム」「シャイン」に1名ずつ、スクールソーシャルワーカーを各中学校区に1名配置するものでございます。不登校については、昨今の情勢を考慮し、不登校数を減少させる目標事項から「不登校児童生徒の内、学校内外で相談・指導等を受けていない児童・生徒の割合」へと今回より変更しております。令和5年度は目標値を達成したものの令和6年度は目標値を下回ったため、C評価としました。

次に、資料5の24ページをご覧ください。「地域の情報拠点としての図書館機能の充実」についてですが、事業概要としましては、魅力ある図書館運営に努めるとともに、資料の充実とニーズに応じた的確な資料提供に努めるものでございます。目標事項の①②とも目標値を達成しておりますので、A評価としました。

次に、資料5の27ページをご覧ください。「結婚新生活支援事業」についてですが、事業概要としましては、新婚世代の住居費及び引っ越し費用を支援することにより、結婚に伴う経済的不安の軽減を図るものでございます。今回より新たに目標事項②「マッチングアプリのお見合い件数」を追加しております。市の評価といたしましては目標事項①②ともに、目標値を大きく上回っておりますので、A評価としました。

基本目標③の補足説明は以上です。

委員長： それでは、基本目標③の各事業について、ご意見・ご質問いかがか。

委員： 16ページ「地区福祉委員会活動の支援（ふれあいのまちづくり事業）」の子育てサロンについて、福祉委員会では人材が不足しており、今まで月2回していたところが月1回に減っているところもある。そのような中で目標値として回数をどのように増やしていくと考えているのか。

また21ページ「放課後児童対策事業」について、数字だけみれば増えてはいるが、校区によっては狭いところに押し込められているところもある状況についてどう考えているのか。

幹事： 1点目の質問について、本事業は、泉佐野市から泉佐野市社会福祉協議会に対して事業補助金を出す事業である。地区福祉委員会は13校の小学校があるが、これに1つ地区を加えて14地区で行っている。今後について福祉委員会や社会福祉協議会と協議のうえ増やす方向で検討している。

委員： 増やす方向で検討しているとのことであるが、具体的にどのように考えているのか。

幹事： KPIの指標であるが、泉佐野市の発展を目指すなかで取り組む事業指標のうちの1つであることから、最初から縮小の方向で考えるのではなく拡大していく方向で現場を協議しながら進めている。

幹 事： 2点目の質問について、共働きの家庭などが増えていることから、そのようなニーズを汲み取り留守家庭児童への対応をしている。現段階では児童も毎日通っているということではなくスペース的には許容範囲であるが、今後児童数が増えるということになればスペースの拡張も検討する。少子化など将来的な傾向も見越したうえで、児童が快適に過ごすことができるようスペースの問題を考えていきたい。

委 員： 15 ページ「さのっ子ナビ（電子母子手帳）による子育て支援」について、昨年も意見を出したが、このようなアプリは厚労省においても登録者の増加を図ることが難航していると聞く。自治体によってはマイナンバーなどの他業務と連携していくなどもあるが、このままでは実績値の改善が見込まれないと考えることから改めて現状を聞きたい。

幹 事： 進捗管理シートに記載があるとおり平成 28 年から開始している事業である。課題となっていることは出生の手続きしたときに本人ではない方が来られたときに十分な説明ができていないことで周知があまり進んでいない。他市町村でも同様のアプリを活用しているところはある。今後広報等を強化することで登録者数を増やしていきたい。

委 員： 予算が少ないと感じることから、今後予算を増やすことを検討していただきたい。

委 員： 16 ページ「地区福祉委員会活動の支援（ふれあいのまちづくり事業）」について、6 年度評価で現状事実のみの記載となっており理由・原因等の記載がない。そのため評価内容を修正していただきたい。

また 17 ページ「幼児教育・保育」について、6 年度評価で「保育に欠ける保護者」との表現があるが、国の保育指針などでは「保育を必要とする」となっていることから、保育に欠けるとの表現は現在使われていないのではないかな。

幹 事： 1 点目の質問について、評価内容に理由・原因等を追記のうえ修正する。

幹 事： 2 点目の質問について、「保育を必要とする」との表現が正しいため修正する。

委 員： 17 ページ「幼児教育・保育」について、待機児童 0 の実績は素晴らしいが、評価が A になるためにはどうなったらいいのかな。長期間待機児童 0 が続いていることから評価が A でもいいのではないかな。

委 員： 単年度評価との視点で考えると評価を A にすることは難しいのではないかな。

委 員 長： 委員よりご意見いただいたが、待機児童が継続して 0 であることは評価できる一方で、評価基準の観点からは目標通り進捗しているに該当することから評価は B でもよいのではないかな。A 評価となるには目標以上に進捗する必要があると思うが何か意見はあるかな。

委 員： 同様に、19 ページ「小学校通学支援事業（通学バスの運行（第一小学校・大木小学校））」について、KPI①「通学バス利用児童数」で現在 A 評価がついているが、対象者がいる程度決まっているため、A 評価ではなく B 評価でいいのではないかな。

委 員 長： まず、17 ページ「幼児教育・保育」について、複数年にわたり待機児童数が 0 であることから A 評価でもいいのではないかなとの意見があったが、他に意見等あるかな。

幹 事： 国としては待機児童 0 が基本となっており、0 でない場合は、0 にするための施策を実施するよう指示がでている。また待機児童 0 の継続のほかに、本市では給食費無償化、第 2 子の保育料無償化等の独自施策を実施している。指標としては目標どおりに進捗しているとの観点から B 評価でもいいのではないかな。

委 員 長： 承知した。それでは B 評価で変更なしとのことでよろしいかな。《はい》

委 員： 19 ページ「小学校通学支援事業（通学バスの運行（第一小学校・大木小学校））」について、KPI の対象数が一定数わかっている事業である。A 評価とする場合は、目標以上に努力があった場合であることから、B 評価でいいのではないかな。

幹 事： 対象数が一定数であるとのことは委員ご指摘のとおり。通学バスを定時運行することは、授業時間に間に合う、また下校時は学校の行事の時間に合わせるなど、学校のカリキュラムに柔軟に対応している。このように内容的には A 評価であるが、委員の意見を踏まえると B 評価でいいのではないか。

委 員： 大木地区出身の子どもたちが卒業して日根野中学校に通われることが多い。その子どもたちは公共バスを使用して通学していることから、対象範囲を広げていただきたい。

委 員： KPI の考え方に基づいた場合は B 評価でいいのではないか。

委 員 長： 適切・柔軟な対応をしていることは前提ではあるが、A 評価とするには目標以上の進捗が必要となることから、B 評価でよろしいか。

委 員： 学校行事で柔軟な対応をしていただいていることは非常にありがたいこと。他事業と評価基準を統一することを考えると B 評価でいいのではないか。

委 員 長： それでは、実績としては十分な数値となっているが、目標以上の進捗をはかることができないことから B 評価としてよろしいか。《はい》

委 員： 20 ページ「ICT 活用教育推進事業」、21 ページ「放課後児童対策事業」について、具体的施策「②児童・生徒の学力・体力の向上・キャリア教育の推進」に分類されているが、キャリア教育の要素はなにかあるのか。

幹 事： 20 ページ「ICT 活用教育推進事業」について、ICT の活用をしていくことは将来の進路にも関わってくるためキャリア教育につながると考える。21 ページ「放課後児童対策事業」について、留守家庭児童会で様々な体験経験を通して進路に関わることもしているためキャリア教育につながると考える。

委 員： 19 ページ「小学校通学支援事業（通学バスの運行（第一小学校・大木小学校））」について、最終予算額が円単位となっているが、基本は千円単位の予算とすることから、他の事業も含めて全体的に確認してほしい。

委 員 長： 他、いかがか。

それでは、基本目標③の事業については、意見をまとめると、16 ページ「地区福祉委員会活動の支援（ふれあいのまちづくり事業）」について、評価の内容を追記する。17 ページ「幼児教育・保育」について、適切な表現に修正する。19 ページ「小学校通学支援事業（通学バスの運行（第一小学校・大木小学校））」について、KPI の達成度として 100%を超える数値となっているものの、指標となる通学バス利用児童数が一定数であることから、A 評価の基準である目標以上に進捗をはかるための条件を満たしていないため B 評価に修正する。予算額の単位について、全体的に千円単位で統一する。以上でよろしいか。《はい》

次に基本目標の④「時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」について、事務局から補足説明をよろしくお願いしたい。

事 務 局：《基本目標④の事業について補足説明》

それでは、基本目標④に掲げる各事業に対する補足説明をさせていただきます。

資料 4 の裏面の上段をご覧ください。

基本目標④「時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」に掲げた事業は 13 事業でございます。市の評価につきましては、A 評価が 3 事業、B 評価が 4 事業、C 評価が 6 事業となっています。

それでは、資料 5 の 29 ページをご覧ください。「コミュニティバス無料化事業」についてです

が、事業概要としましては、コミュニティバスの無料化を継続することで、地域の公共交通網による移動手段の維持・確保を図り、交通弱者が容易に移動でき、社会参加等を促進するとともに、通勤・通学等の経費減による転入促進を図るものでございます。コロナ禍で落ち込んだ利用人数は、回復傾向にあるものの、コロナ禍前の水準には達しておらず、目標値も下回っているため、C評価としました。

次に、資料5の30ページをご覧ください。「泉佐野市大防災訓練」についてですが、事業概要としましては、11月第一日曜日の「市民防災の日」に市域全体で地域の自主防災組織を主体とした大防災訓練を実施するものでございます。目標事項の防災訓練参加人数の達成度は、目標値を下回っているため、C評価としました。

次に、資料5の31ページをご覧ください。「地域防災の担い手の確保」についてですが、事業概要としましては、災害等に関する正確な知識を習得し、地域における防災・減災リーダーの育成を図るため、防災士資格習得研修を実施するものでございます。目標事項の防災士の資格習得人数の達成度が100%を超えたことから、A評価としました。

次に、資料5の32ページをご覧ください。「地域の絆づくり登録制度」についてですが、事業概要としましては、避難行動要支援者に対し、あらかじめ市に登録していただき、地域の支援団体や関係機関とその情報を共有し、平常時の見守りや災害が発生したときの避難支援活動、安否確認に役立てるものでございます。目標事項の①についてはKPIが目標以上に進捗しているものの、目標事項②については達成度が低かったことから、総合的な判断として、C評価としました。

次に、資料5の35ページをご覧ください。「健康マイレージ事業」についてですが、事業概要としましては、健康教室への参加や各種検診の受診など、健康づくりの取り組みに対し、さの健康ポイントの付与を行い、健康づくりへの積極的な参加促進を図るものでございます。令和6年1月に、デジタル化「さのぽっ歩」を開始し、「紙」と「デジタル」を併用した運用となりました。デジタル化により、飛躍的に参加者が増加し、A評価としました。

次に、資料5の36ページをご覧ください。「介護予防事業」についてですが、事業概要としましては、要介護状態への予防のための運動機能向上プログラムを実施や、カラオケ機器を利用した音楽介護予防教室を開催し、高齢者が自立した日常生活を営むことを図るものでございます。目標事項①の音楽介護予防教室の参加者数については、目標値を超えたものの、目標事項②のロコトレ教室参加者数が目標値に達していないことを考慮して、C評価としました。

次に、資料5の37ページをご覧ください。「防犯推進事業」についてですが、事業概要としましては、町会等が自ら管理するLED式防犯灯の整備することに対し補助金を交付することにより、地域住民の自主防災意識の高揚に寄与することを目的とするものでございます。目標事項①の実績値や達成度について、目標どおりに進捗したとは言えないため、C評価としました。

次に、資料5の38ページをご覧ください。「町会連合会の加入促進事業への補助金」ですが、目標事項①の「町会加入率」の達成度が目標どおりに進捗したとは言えないため、C評価としましたが、令和7年度につきましても、新規加入世帯に対する「さのぼ」ポイント付与事業や、町会・自治会へのインセンティブとして、新規加入世帯1世帯あたり5,000円の報奨金を町会・自治会へ交付する制度を継続、加入勧奨を進めていくこととしています。

次に、資料5の41ページをご覧ください。「キャッシュレスや地域通貨の活用推進」についてですが、事業概要としましては、官民連携による地域ポイント「さのぼ」を通じて、地域外への経済流出を防ぐこと、および新たな地域内経済への流入を増やすことで、地域内経済循環を高め、自立した地域経済の活性化を図るものでございます。目標事項の①「地域内消費額」及び②「カード会員数」とともに目標値を大幅に超えてきたことから、A評価としました。

基本目標④の補足説明は以上です。

委員長： それでは、基本目標④について、ご意見・ご質問いかがか。

委員： 37 ページ「防犯推進事業」について、KPI①「防犯灯の LED 化率」で 100%を目標値としているが、これは蛍光灯の製造が 2027 年度に製造中止となることから、それまでに LED に変えていかないといけないため設定していると思われる。KPI 達成までの期限が決まっているものであることから、今後の見込みなどあれば教えていただきたい。

幹事： 本事業は令和 7 年度も継続しており、町会等で LED 化を進めているところである。令和 8 年度については市で一括管理するよう進めているので、遅くとも令和 9 年度中には 100%を達成できる見込みである。

委員： 41 ページ「キャッシュレスや地域通貨の活用推進」について、KPI②「カード会員数」で実績値が泉佐野市民よりも多くなっている。市民と市民以外の割合はどうなっているのか。

幹事： おおよそ市民が 6 割、市外が 4 割の会員数の推移となっている。

委員長： 他いかがか。

それでは、基本目標④の事業については、評価については市の自己評価のとおりとさせていただきます。《はい》

それではそのようにさせていただきます。

それでは、全事業①から④についての評価をさせていただいたが、全体を通じて、改めてお気づきの点や疑問点などはないか。《なし》

本日の評価結果は、事務局で一覧にとりまとめて、後日ご確認をお願いするということにさせていただきます。

またその他修正箇所について、事務局と調整するという事でよろしいか。《なし》
次に次第の（3）今後の予定について、事務局の方から説明をお願いしたい。

事務局： 《今後の予定について説明》

委員の皆さま、ありがとうございました。

今後の予定につきましては、本日、各委員の皆様からいただいた各事業に対する評価や

ご意見を踏まえ、事務局の方で、評価一覧表として、まとめさせていただき、まとめたものを吉村委員長と調整させていただいたうえで、各委員の皆様へ送付したいと考えております。そして、それぞれご確認いただきまして、もしご意見等があればお伺いし、最終まとめさせていただきたいと考えております。

従いまして、事業評価委員会につきましては、一旦、本日の 1 回で終わらせていただこうと考えております。なお、国の交付金の事業報告で、事業評価について別途、開催する必要がある指示があった場合など、どうしても皆さまのご意見をいただいた方がいいということになれば、またご連絡させていただくこともあるかも知れませんので、その際にはよろしくお願いします。

そのほか、最終まとめた評価一覧表につきましては、国をはじめ、9 月に開催されます市議会 9 月定例会にて報告する資料にしたいと考えております。

なお評価委員会とは別に、今年度は第 2 期泉佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画最終年となっており、第 3 期総合戦略の策定を行うこととなっております。

評価委員の皆様におかれましては、次期総合戦略の策定にお力添えをいただきたいと考えており、

具体的には年度内に事業評価委員会を1回開催する予定ではございますが、この件につきましては、改めてご案内等させていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

委員長： 今後の段取りについてご説明いただいたが、こちらでよろしいか。《なし》
それではそのような段取りで進めさせていただく。
それでは次に、次第の（４）その他であるが、皆さまの方から何かあるか。《なし》
《終了》